

「第1回“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	鹿屋の漁村を盛り上げる会
日時	平成26年7月1日（火）17時から18時30分まで
場所	鹿屋市漁業協同組合
参加者	鹿屋の漁村を盛り上げる会（鵜瀬芳昭様外16名）
	市長、副市長、市長公室長、農林商工部長、産業観光振興監 広報広聴課長

1 海岸地区の活性化について

提案：廃校となった古江小や菅原小など、ブルーツーリズムの宿泊施設として活用できないか。

回答：市内で9校廃校となるが、どう利活用するかが大事。

まずは、地域の声を聞くことであるが、実際の活用として、地域でできることがあれば活用していただきたいし、難しければ、行政で活用作を具体的に検討していく。それでもうまくいかなければ、公募をかけるなどの方法が考えられる。

跡地問題については、施設の老朽化等の問題もあるので、地域活力推進課で集中的にスピード感を持って行いたい。

提案：小規模でも生産者が無理なく出荷コストを削減し、農産物とのコラボなど付加価値を付けてブランド化したら、地域の雇用活性化に繋がるのではないか。

回答：魚と農産物とのコラボは面白いと思う。一回で良い物はできないと思うので、色々な組み合わせで作ってみて、失敗しながらそれをテコに改良を加えて成功に導いた方がよいと思う。

提案：三重の古江町では、廃校となった施設で塩を作っている。大隅の海岸で塩というのはあまり聞かないので、廃校を利用してそういったものを作れば、人の流れもできるのではないか。

回答：例えば、地元出身の県外で活躍された方で、一線を退いた方を地元呼び戻すなど、そういう人達のネットワークを大切にすべきであり、そういった人達の気持ちを鹿屋に向ける施策を考えないといけない。それと廃校での塩の製造などミックスしてやればよいと思う。ただし、廃校の活用については耐震の関係もあるので、確認が必要である。

提案：去年から花火大会を古江で行うようになってとても良かった。そこでかき揚げを販売したが、せっかく人が来るので、海岸地区の他の物もPRできればと考えている。

回答：古江で行われ、皆さんが主役なので、色々なものを出してもらいたい。ただ、生ものについては、衛生上の問題があるので難しい部分もあるが、要望等あれば相談に応じるので頑張ってください。

提案：駐車場が遠いと感じた。みなと食堂の駐車場が砂地であるが、これを舗装して使えないか。

回答：会場の近辺に関しては交通規制が入るが、会場近くに駐車場を作ると車両が殺到し、混雑を生んでしまうことがある。

そこで、市内各所からシャトルバス 34 台を使った送迎や、古江小跡を 1 台 1,000 円の駐車場にして、そこからのピストン輸送を考えている。また、自転車やバイク用に駐輪場も用意したい。

提案：空き家対策として、使えそうな家があるが、漁業に携わる従業員の借家にしたたり、体育大生のシェアハウスとして使えないか。また、倒壊しそうな家についてはどのような対策をとるのか。

回答：利用可能な家については、空き家バンクの制度を導入するなど、活用の方策を検討していきたい。

また、空き家対策として、6月議会で、解体費用の1/3以内で上限30万円の補助金を50戸分予算化しているので、老朽化の激しい家屋や危険度の高い家屋への対策として活用していただきたい。

提案：古江地区は地籍調査が終わってなく、不動産の売買もしにくい。地籍調査の現状はどうなっているか。

回答：現在、鹿屋全体で70%程終了しているが地域によって違う。地籍調査は、国・県・地元の予算で実施しているが、毎年予算が決められていて、実施できることが限られている。市としても地籍調査室を設けて、そこで人数をかけて取り組んでいるが、境界も定かでない場所がある中で、近所の人たちの立会いのもと進めているものの、時間も労力もかかり、なかなか進まないのが現状である。これについては、継続的にやっていくしかない。

提案：廃屋を壊したときに固定資産税が上がるという話を聞いたが事実か。

回答：建物があるときは税金が軽減されているが、更地にした場合、軽減措置がなくなるため税金の額が上がる。これについては、空き家対策を進める上からもネックになっているので、国で検討中である。

提案：古江地区は都市計画税が高いと聞いているが。

回答：都市計画税の税率は決まっている。このことから、土地そのものの評価額が高かったり広い面積であったりすると、結果として都市計画税も高くなることになるが、古江地区だけ高いということではない。

2 業協の経営、将来展望について

提案：カンパチ養殖は、全体の経費のうち6～7割の費用が生餌や配合飼料に使われているが、近年の生餌の価格高騰を受けて、生餌を自分たちで作ることで経費削減を図っている。

また、各種作業を行うために借りている県有地の使用料は業者負担になっており、業者が減ると負担が増えることになる。これまでの多くの負債が、今必死に努力している業者の負担となってくるが、漁協が倒産すれば職員の生活も途方に暮れる。

このような中、今年の秋、経営改善計画を策定して、国から9億円の借り換えを行う予定なので、鹿屋市としてその一部を利子補給していただけないか。

回答：皆さんが自分たちで生餌を作りコストを減らしている努力、これには積極的に応援したい。農業や漁業は売価が上がらないので、いかにコストを削減するかという努力が大事である。

利子補給については、市の単独では難しいが、総会等で若い人達の声で議論していただいて、県や漁連も入れて全体でやっていかないといけない。農林水産業は大変の連続だが、乗り越えないといけない時期でもあるので、皆さんには頑張っていたきたい。

提案：鹿児島県には131港あるが、鹿屋は商港しかなく、資材置き場等の費用もかかる。養殖経営の負担軽減化に協力をいただきたい。

回答：垂水は県管理の漁港だが、鹿屋は県管理の商港であり、資材置き場等の場所の借り上げにも費用がかかる。鹿屋も製氷、冷凍施設は1/2に減免されているが、荷捌きには減免措置がなく、全体面積で見ると、22%程度が減免されている。

免除されていない面積部分について、減免の余地があるのか事務的に考えていきたい。

提案：バラエクスや焼酎粕を再利用した餌を使った、独自性のあるカンパチを使って、新たな販路先の開拓など市と一緒にやっていきたい。

回答：牛や豚には焼酎粕を使った飼料もある。そういったことに長けた先生の話も伺いつつ、試験研究機関もあるので、餌のやり方や作り方、餌のコストを下げる方法等お手伝いできればと考えている。

提案：現在、show-1 グランプリに向けて、カンパチを使った新しいメニュー作りに取り組んでいるが、市の方にも情報提供など色々と協力していただきたい。

回答：Show-1 グランプリで枕崎の船人めしというのがあるが、船人めしは毎年改良をしてグランプリで2連覇した。ぜひ1位を目指してがんばっていただきたい。

提案：古江の町内会は4つあり、漁協の管理にも影響があるが、早く古江を一つの町内会にしていきたい。

回答：地元が熱くならないと難しい部分もあるが、新町以外の人口は100人を切っているので、どうにかしないといけないと考えている。